### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291600094	1291600094		
法人名	社会福祉法人 豊立会			
事業所名	グループホーム まんざきの家 玲光苑			
所在地	千葉県 成田市 松崎 259			
自己評価作成日	令和4年12月24日	評価結果市町村受理日		

#### ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http.//www.kaigokensaku.jp/12/index.php

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム	
所在地	千葉県 市川市 富浜 3-8-8	
訪問調査日	令和4年12月17日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人生の先輩として尊敬の気持ちを持って、個々の生活歴、出来る事又出来ない事、得意な事を把握し、日々の暮らしの中でその能力を発揮出来るように支援しています。生活面では特に毎日が画一的なものにならないように運動や制作活動又外出機会を設け、日課は決めずにご本人の希望を大切にしています。苑庭では合間の時間にて野菜又お花作りをしており、職員と利用者様で協力して行っています。収穫した野菜は、食材に取り入れ共同で調理を行い、達成感や満足感に繋げられるように取り組んでいます。入所されたことで社会との関わりが途切れないように努めていますが、昨年同様にコロナの影響で毎年恒例の地域行事への参加や地域の方との交流は出来なかった。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム まんざきの家 玲光苑」は小規模多機能ホームが併設されており、日頃から合同行事での交流や看護師による支援等、様々な場面で連携を図っている。また、母体の法人が各種介護保険サービス事業所を運営しており、地域に根ざした施設運営と複合施設の特徴を最大限に活かし、地域高齢者のケアサービスの推進に繋げている。現在コロナ禍の為、地域交流の機会は減少しているが、たけのこ交流会、グランドゴルフ大会、地域の防災訓練に職員が参加しており、地域との繋がりを大切にしている。また、外出行事の実施は見合わせているが、散歩、買物、ドライブ、外気浴等の実施により、野外での楽しみを支援していると共に、敷地内の活動やレクリエーション活動に力を入れており、入居者の生活の活性化を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します						
	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	↓該	取 り 組 み の 成 果 当するものに〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 〇 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ul><li>1. ほぼ全ての利用者が</li><li>2. 利用者の2/3くらいが</li><li>3. 利用者の1/3くらいが</li><li>4. ほとんどいない</li></ul>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
0	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 0 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利田老け その時々の状況や亜翅に広じた柔軟	○ 1. ほぼ全ての利用者が				

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。〕

自己	外	項目	自己評価	外部評価	
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ι.3		こ基づく運営			
1		理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共 有して実践につなげている	法人基本理念を掲げ共有すると共に、安らぎある家庭的な環境の中で、お一人おひとりに寄り添い安心して暮らせる生活を支援、ご利用者の立場に立った思いやりのある暖かいケアと地域住民や地域の関係機関との連携・協力を理念に掲げ、地域でその人らしく暮らせる為の支援を行っている	「愛情・尊敬・信頼」と言う法人基本理念を掲げ、施設内に掲示すると共に、法人のホームページや広報誌に掲載する等、内部及び外部の人達への周知を図っている。また、研修等を活用し、全職員で理念や基本方針を共有する等、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様に新型コロナ感染拡大の影響により、イベントは中止となってしまい、地域の方とは挨拶など日常的な関わりの中で交流を保っている。	自治会に加入しており、地域との交流や繋がりを大切にしている。また、日頃の挨拶やドライブ等を通して、入居者と地域の繋がりを支援している。現在コロナ禍の為、地域との交流機会は減少しているが、たけのこ交流会、グランドゴルフ大会、地域の防災訓練に職員が参加している。	
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 向けて活かしている	今年度も敬老会、認知症カフェに参加出来なく、地域の方との直接的な関わりは少なく、広報誌や事業所ブログにて認知症の理解や支援の方法について発信を継続している。		
4	(3)	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上 に活かしている	運営推進会議は中止だったが、活動等の実績報告を資料にまとめ、運営推進委員の方へ開催時期に資料を提出、報告を行い意見等を伺っている。	市職員、包括職員、民生委員、地域住民、家族、施設職員を構成員として、年4回運営推進会議を開催している。現在コロナ禍の為、構成員に活動報告等の資料を配布し、意見を伺う形で開催している。	
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取り組みを積極 的に伝えながら、協力関係を築くように取り組 んでいる	運営推進委員の方への活動報告を行う際、成田市にも資料を提出、より良いサービスの為の相談、助言を頂いている。また、毎月オンラインにより地域密着連絡会に参加、報告、助言を頂いている。	模事業者連絡会に書面やリモートを活用して	

自	外		自己評価	外部評価	i
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6		理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束 をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実績は現在もなく、日頃より身体拘束にならないように意識して業務に従事している。今年度も資料ベースでの研修は行った。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備し、施設内に掲示すると共に、内部研修を実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、毎月の職員会議で身体拘束排除の委員会を開催し、支援方法の確認や検討を行っており、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法に ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業 所内での虐待が見過ごされることがないよう注 意を払い、防止に努めている			
8		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、資料を用いての内部研修実施をすることで虐待防止に対する意識を高めている。成年後見制度については、この制度をご利用されている入居者様が居る事で話し合う機会を多く設け、その必要性について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説 明を行い理解・納得を図っている	契約時は、理念、サービス内容、料金、緊急対応の説明を行い、充分な理解を得ると共に納得頂いてから契約を行っている。また、法改正時は重要事項説明書を改定し、その都度説明を行っている。		
			ご利用者は日常生活の中で、ご家族には面会時等に意見を伺い、その意見を取り入れ反映している。また、管理者も日常的にご利用者と接することで意見や要望を伺う機会を設けている。	家族の面会時や電話連絡等を活用し、直接家族の意見や要望を確認している。挙がった意見や要望は、会議等で検討を図り、施設運営に活かしている。毎月「まんざきさこーよ」を発行しており、写真や文書で入居者の生活や活動状況を伝えている。また、法人のブログで日々の様子も配信しており、家族の楽しみとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業方針作成時は、職員から意見や提案を聞き作成している。また、定期的に会議を開催、意見交換の場を設けると共に随時、相談や報告を受け運営に反映している。	定期的に運営会議・グループホーム会議・まんざき会議等を開催し、職員の意見や提案等を確認しており、入居者の支援や施設運営に活かしている。また、個人面談を実施しており、職員個々の意向も確認している。会議については、新型コロナウイルス感染防止対策のため、職員一人ひとりの意見を確認の上会議資料を作成し、回覧する形で実施している。	

自	外	-= D	自己評価	外部評価	i
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		場境境・条件の整備に努めている	随時面接をすると共に、相談しやすい環境作りに努めている。また、労働時間帯などは、家庭の事情も考慮し、働きやすい環境作りに努めている。		
13		いくことを進めている	法人で毎年実施するリーダー研修・中堅研修など全体で行う研修会がコロナの関係で中止となっているが、個々の意見を伺い、書面での内部研修を2ヶ月位ごとで行っている。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上 させていく取り組みをしている			
Π.5	安心。	と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本 人の安心を確保するための関係づくりに努め ている	サービス導入前には、出来る限りご利用者に 見学して頂き、ご利用者に不安や分からないこ とがない様に説明を行い、安心して生活できる 様に環境を整備している。また、ご利用者の話 を傾聴することにより不安を和らげられる様に 努めている。		
16		ら、関係づくりに努めている	ご利用前こは、ご家族から生活状況や身体状況など様々な介護での困難をじっくりと聴くようにしている。また、利用後にも電話や面会時も含め、毎月報告書にて状況を伝えて、関係の絶えない様に努めている。		
17		他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な視点からアセスメントを行い、本人が望んでいる生活とご家族が望んでいる生活を理解し、可能な限り要望に答えられる様に努めている。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊敬の気持ちを持ち、個々の生活歴や出来ること、出来ないこと、得意不得意を把握し、暮らしの中でその能力を発揮出来る様に支援している。日常生活で出来ることは職員と一緒に行い、コミュニケーションを良くしつつ信頼関係を築く様に努めている。		

自	外		自己評価	外部評価	ī
自己	. 船	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	普段からご利用者の様子は報告し、必要に応 じて随時支援方法の相談を行い、共に本人を 支えていく関係を築く様に努めている。		
20	(8)	場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会は困難だが、電話や手紙などを用いて出来るだけ関係の継続が出来る様に支援している。		
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でコミュニケーションが取れる様に職員が間に入り、会話をつなげたりすることを日常的に行うことで関係性を深められる様に支援している。また、定期的に交流を深められる様な食事会やおやつ作りなどを行っている。		
22		家族の経過をフォローし、相談や支援に努め	サービスを終了されたご家族でも気軽に施設を 訪れ、その後のご様子などを伺える関係性を 築けている。		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジン	シト		
	(9)	に検討している	これまでの生活歴、習慣、今後の意向の聞き 取りを大切している。出来ていたことの継続や ご家族、友人、地域など途切れない関係作りの 継続を心がけている。また、声掛けを多く行い、 言葉や表情から心情を察したり、普段の会話 の中で聴いたりと意志の把握に努めている。	入所前に本人や家族から意向・生活歴・身体 状況等を確認していると共に、医療機関や他 事業所からの情報収集を行っている。また、入 居後は、家族との話し合いや、日々の様子観 察や会話等から一人ひとりの意向や思いを汲 み取っている。ケアプランの作成や見直し時に サービス担当者会議を開催し、入居者の意向 の把握に努めている。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生 活環境、これまでのサービス利用の経過等の 把握に努めている	アセスメント時や日々のコミュニケーションを重ねることで、生活習慣やリズム、価値観を把握し、サービスに活かせる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の生活リズムを大切にしながら、日々の会話や表情、バイタルなどを参考にして、常に心身の現状把握に努めている。日々の状態変化については、ケース記録・看護記録に記載、また申し送りを行い把握に努めている。		

自己	外		自己評価	外部評価	i
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、 現状に即した介護計画を作成している	心身状況について随時、介護職、管理者、計画作成者、看護師間で話し合いを持ち、また会議等で検討を行い、情報の共有に努ている。また、随時ご家族へ相談・報告を行い、協議の上で介護支援方法を決めている。	的に目標の達成状況の確認及び評価を行っ	
27		いる	日々の様子はケース記録、特記は業務日誌と 職員連絡ノートに重複して記録、職員間の情報 の共有とモニタリング、介護計画に活かす様に 行っている。		
28		<b>でいる</b>	今までの生活習慣を大切にし、また毎日の生活の中で出た要望を取り入れながら、外出支援や活動内容を決めている。また、ご家族が困難な場合は受診同行も柔軟に行っている。		
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館への行き来を散歩コースに取り入れる など資源を活用しながら、昔の友人や顔なじみ の方々、また地域の方々との交流を持ち、暮ら しを楽しむことが出来る様に支援をしている。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療を受けられるように 支援している	受診は掛かりつけ医へご家族と共に受診されている。ご家族対応が出来ない場合は、施設で送迎を行っている。急変時などの場合は、迅速にご家族と連携を取り、必要に応じて協力病院への受診が出来る様体制を整えている。	入居者や家族が希望する医療機関を受診することが可能となっており、必要に応じて職員が同行している。家族が同行する際は、受診日までの入居者の状況を必要に応じて文書で情報提供も行っている。併設の小規模多機能施設の看護職員による健康管理・服薬管理・医療相談・助言等も行われており、入居者及び家族の安心に繋がっている。協力医療機関とは24時間連絡が可能となっており、緊急時や急変における対策を講じている。その他、月に1回訪問歯科による往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等 に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診 や看護を受けられるように支援している	毎朝と必要時にバイタル測定を行っている。入 浴時には必要な処置や身体状況の観察、排泄 状況の確認、服薬管理など、併設した小規模 多機能の看護職員と情報を共有し、受診が必 要な時はご家族へ伝えている。		

## 【千葉県】グループホームまんざきの家玲光苑

自己	外	項目	自己評価	外部評価	i
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、又、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。 あるいは、そうした場合に備えて病院関係者と の関係づくりを行っている。	刀柄院の八座院又援手を訪问して関係作りに  怒めている  完期受診時もバイタル表や日々		
33		事業所でできることを十分に説明しながら方針	重度化した場合は、毎日の様子をご家族へ連絡し、また不測の事態にも協力病院と連携を取り、対応出来る様にしている。更に特養などへの入所支援が出来る体制がある。	重度化・終末期における施設の方針を明文化しており、入居者・家族への意向確認及び同意を得ている。重度化・終末期においては、協力病院の医師と24時間連絡が可能となっており、必要な支援が行えるよう連携体制を構築している。その他にも同法人施設との協力体制が整っており、ニーズに応じたサービスの切り替えが可能となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての 職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的 に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、マニュアルに沿って対応している。併設している小規模多機能の看護職員と連携を取ると共に、迅速にご家族へ連絡を入れ対応の協議また必要時には主治医または協力病院へ速やかに連絡、搬送を行っている。		
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行い、職員の防災意識を高めている。また、日頃より地域との交流の中、 災害時に連携が図れる様に呼びかけている。	スプリンクラー・火災報知機・自動通報器を設置する等、緊急時・災害時における消防設備が整っている。年2回避難訓練を実施しており、日中想定訓練や総合訓練により、災害時の対応を職員間で共有している。他にも、地域の防災訓練に参加しており、地域や関係機関と災害時の連携や協力が得られている。	

自	外		自己評価	外部評価	
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	シーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念である愛情・尊敬・信頼の気持ちを常に持ち、プライドを傷つけない声掛けや対応を行っている。自分がされたい介護、されたくない介護を常に意識し、人生の先輩として尊敬の心で対応を行っている。	法人の理念に「愛情・尊敬・信頼」を掲げ、 日々の生活の中で、入居者の気持ちに配慮する等、理念を意識したケアの実践に努めている。個人情報保護及びプライバシー保護に関するマニュアル整備や研修を実施しており、意義の理解浸透及び周知徹底を図っている。	
37		り、自己決定できるように働きかけている	出来る限り声掛けを多く行い、ご本人の思いや 希望を聴く様に心がけている。言葉で上手く伝 えられない方には、表情や仕草を観察し、訴え に気づける様に心がけている。		
38		一人ひとりのペースを大切にし、その日をどの	ご利用者一人一人の生活リズムを大切にし、 静養時間をもうけたり、好きな時間に居室で過 ごしたりと日課は決めないでご本人の希望を優 先している。また、日々の中で何がしたいか等 要望を伺い、活動に取り入れ支援している。		
39			これまでの習慣を大切にし、使い慣れたブラシ や石鹸、化粧水などで身支度を整えんて頂い たり、今まで着慣れた洋服を持参し着用して頂 いている。昨年より来苑回数が減ってしまった が、本年も美容師が来苑し、ご本人の希望に 沿った整髪を行っている。		
40		〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じられる様に、その時期の旬な食材を取り入れ、行事に合わせ芋煮会なども行っている。調理やおやつ作りを一緒に行い、食事も一緒にしている。準備から片付けまでも役割を持ち行っている。		

自	外	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		じて確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、 習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態に合わせて食事形態を変えている。水分摂取量は24時間チェック表を使用して管理している。また、声掛け介助のほか、摂取量が少ない時はご本人の好みの物や慣れ親しんだ食べ物を提供している。		
42		一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口 腔ケアをしている	毎食後、全員がその方に合わせて口腔ケアを 行っている。自分で出来ない方は、職員が声掛け、必要に応じて介助している。口腔状況に応じて、ご家族と相談し、訪問歯科の利用を行い、治療やアドバイスを頂いている。		
43			排泄チェック表をつけて、一人一人の排泄パターンを把握し、オムツへ排泄される前にトイレ誘導を行い、また尿意のサインを見逃さない様に努めている。また、夜間のみリハパン等の使用を行い、日中は出来る限り布パンで過ごして頂いている。	排泄チェックリストを活用し、個々の排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて対応しながら排泄の自立に向け取り組んでいる。夜間においてはポータブルトイレの使用・トイレ誘導を行う等、状況に応じた適切な支援に努めている。その他にも、献立の工夫や運動等を取り入れると共に、必要に応じて、医師や看護師の指示を得ながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の 工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予 防に取り組んでいる	日頃から適度な運動や散歩を日課としている。 水分量も把握しつつ多く取って頂ける様に努め ている。状況に応じてヨーグルトや好みの飲食 物に変えたりし工夫して提供している。また、食 事のバランスを考え、食物繊維の多い物を使っ た手作りおやつ等を一緒に作り提供している。		
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴 を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間 帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をし ている	必要に応じて週に2~3日に1回で入浴されるなど個々で対応をしている。また、体調によって	入浴は入居者の希望に応じて、時間や回数等、柔軟に対応しており、本人の意向にそった 入浴支援を行っている。必要に応じて、足浴・ 清拭・シャワー浴・部分浴を実施し、入居者の 清潔保持に努めている。また、入浴剤の活用 や季節に応じて柚子湯や菖蒲湯を実施してお り、入浴を楽しむことが出来るよう支援している。	

自	外		自己評価	外部評価	i I
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣やその日の体調やご本人 の希望に沿って支援を行っている。日中の静 養を促したり、就寝時に寝付けない方へは温 かい飲み物を提供、お話しをすることなどで安 心して休んで頂ける様に支援している。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服薬の 支援と症状の変化の確認に努めている	処方の度に薬情書を確認、管理している。一人 一人の薬をケースに仕分けし、日付氏名を確 認、誤薬が無い様に服薬介助を行っている。確 実に服薬出来たかの口腔内の確認と口腔内の 状態変化を観察している。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしてい る	生活歴や趣味、得意なことを継続して行える様に支援している。コロナ禍で地域に出ての交流や外食等の活動は自粛となっているが、室内の制作活動、家事などを取り入れるこで少しでも楽しく過ごせる時間作りを行っている。		
49		出かけられるよう支援に努めている。又、普段 は行けないような場所でも、本人の希望を把	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、 外出活動の自粛を継続しているが、近隣散歩 や日光浴、外気浴は日課として行い、ストレス 解消の機会作りとして行っている。	現在コロナ禍の為、外出会の実施は見合わせているが、散歩、買物、ドライブ、外気浴等の実施により、野外での楽しみを支援している。また、敷地内の活動やレクリエーション活動に力を入れており、入居者の生活の活性化を図っている。	
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理 解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、 お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、トラブルが無い様に配慮している。また、必要に応じてご家族に持参して頂き、買い物ではご本人で支払い出来る様に支援も行っている。		
51		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたいとの希望があった場合には、プライバシーが配慮された部屋で話て頂き、電話がかけられる様にも支援している。また、手紙のやり取りもプライバシーを確保して支援している。		

### 【千葉県】グループホームまんざきの家玲光苑

自己	外	項目	自己評価	外部評価	
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度 など)がないように配慮し、生活感や季節感を 採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を している	共同スペースについては、家具等の置き場所に配慮し、移動しやすいスペースを確保している。また、ご利用者が作った季節の制作物を壁に飾ったりしている。	施設内はバリアフリーとなっており、明るく開放的な空間作りがなされている。共有スペースは広く確保されており、入居者が好きな場所でくつろげるよう配慮している。季節に合わせて装飾を施すと共に、行事の写真を掲示し、入居者・職員間で楽しみを共有できるよう工夫している。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った 利用者同士で思い思いに過ごせるような居場 所の工夫をしている	共同のリビングの他、静かな環境を好む方や		
54		相談しながら、使い慣れたものや好みのものを	の部屋と同じ環境になる様に配慮しており、居	本人の希望に応じて、馴染みの家具等の持ち 込みができ、居心地良く生活できるよう配慮し ている。また、畳・布団を利用する事が可能と なっており、生活歴に合わせた居室作りがなさ れている。温度湿度計・エアコン・換気扇が設 置されており、適切な空調管理がなされてい る。	
55			居室の前やトイレ前には、場所を確認出来る様にプレートを表示している。廊下、トイレ、浴室には手摺りを取り付け、安全確保及び自立への配慮を行っている。リビングや廊下等も移動がしやすい環境整備に努めている。		